

7. 次年度以降の取組の方向性

「C o C o L o (こころ) の教育」に掲げる育成したい九つの資質・能力をバランス良く伸ばすことについてであるが、これからの生徒には、厳しい挑戦の時代を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生き、未来を切り拓いていく力が求められている。生徒の「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、学校のみで育めるものではない。生徒の確かな育ちを保障するには、信頼できる大人との多くの関わりが不可欠である。人と人との関わりを通して、C o C o L o (こころ) は育つ。

そのため地域社会を構成する一人一人が当事者としての役割と責任を自覚し、主体的・自主的に生徒たちの学びに関わり、支えていく中で、「C o C o L o (こころ) の教育」を定着させ、大人もともに学び合い成長を遂げていく姿を目指したい。

コミュニティ・スクール等の仕組みを活かした学校と地域社会の持続可能な連携・協働体制のモデル構築についてであるが、今後も、持続可能で実現可能な適切な取組を実施していくためには、委員が一方的に意見を述べるだけでなく、地域が何を「する」のかも含めて意見を述べてもらうようにすることが重要であると考え。

(持続可能な連携・協働体制の構築についての意見記述から)

WG 1 (企業連携)

- ・商工会議所が、学校と地域をつなぐコーディネーター的な役割を果たすことができればよい。
- ・玉野市の人が玉野市に残って持続する町にしたい。現場へ行って見て、今学んでいることがどのように社会とつながっているのかがわかるのではないかと。社会の仕組みを早い段階で、地域の大人(先輩)から学ぶことが大切だ。

WG 2 (小中学校との連携)

- ・学校行事に地域の人々が参加することが重要である。
- ・先生の負担感が増すと持続可能にならない。地域の方を上手に取り込み、任せていくことが大切である。

WG 3 (ボランティア活動連携)

- ・持続可能なボランティア活動にするために、校内で組織的なボランティア委員会を教職員と生徒でつくり、外部にも同様の協力組織をつくるのがよい。
- ・「C o C o L o (こころ) の教育」を実現するには、授業の中のほうが受け入れ側も協力しやすいと思う。

経験を通じ、全教職員が豊かな指導力の発揮につなげていくとともに、教育や生徒の成長に対する責任を分かち合い、学校がやるべきこと、家庭がやるべきこと、地域がやるべきことの役割分担を図ることで、教職員が生徒と向き合う時間の確保につなぎたい。

また、持続可能な取組や多くの地域の人々の参画を促していくためには、学校と地域の人々が全体として目標を共有し、役割分担を進めながら、組織的な取組を進める必要がある。その意味で、両者をつなぐコーディネーター機能の充実が重要であり、学校教育と地域の実情の両方に通じたコーディネーター(社会教育主事有資格者、PTA役員経験者等)の配置が、学校と地域の双方において望ましい。教員の任用については、12月に学校運営協議会から玉野市教育委員会に、合議体としての意見具申をしたが、これが実現されることを期待している。